

県民の森 花ごよみ 2・3月合併号

～2・3月はこんな花が見られます～

落葉低木～小低木。冬芽はあらゆる樹木に先だつてのびだし芽がではじめるとアブラムシが集まってくる。4月には黄白色の小さな花を多数つける。〈スイカズラ科〉



ニワトコ（芽吹き）

ユーラシア、アフリカ原産。明治の中頃から見られるようになり、現在では全国的に広がっている。花がひとまわり小さいイヌフグりは日本産だが、現在はあまり見られなくなりました。〈ゴマナハグサ科〉



オオイヌフグリ



ホトケノザ

名は対生（たいせい）する葉を連座（れんざ）に見立てたもの。高さ10～25センチ。春の七草のホトケノザはキク科のコオニタビラコのこと。〈シソ科〉

初春、葉に先立って香り高く咲く花は万葉以来愛されてきた。中国中部原産。全国で栽培され、九州の一部では野生化している。〈バラ科〉



ウメ

中国中部原産。マンサクと違い、枯れ葉が花の時期まで残ることが多い。〈マンサク科〉

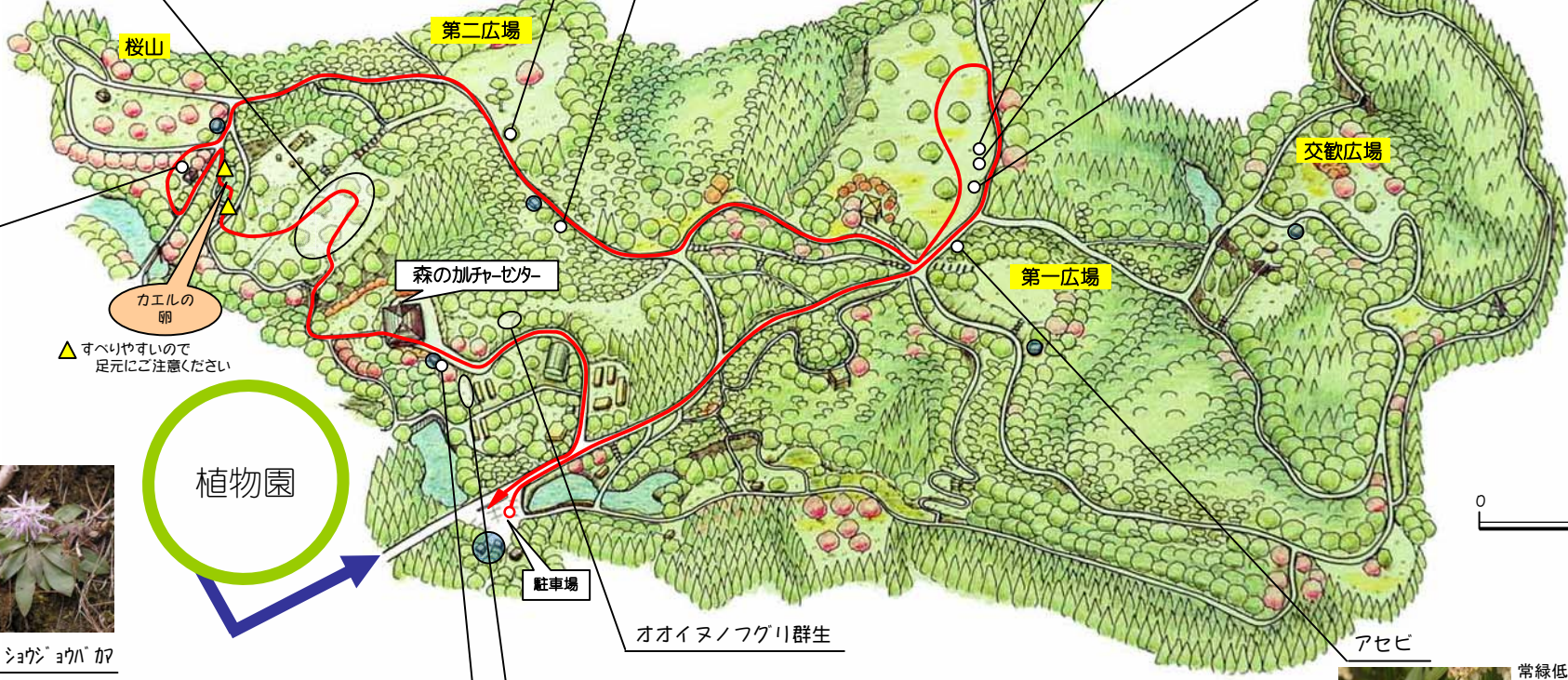


シナマンサク



マンサク

落葉小高木または低木。枝いっぱい花を咲かせるので満作、また「まず咲く」がなまったとする意見もある。俗にこの花がたくさん咲くと豊年の前触れであるといわれる。〈マンサク科〉



山地のやや湿ったところにはえる常緑多年草だが、冬から早春にかけて葉が紅葉する。和名はこの紅葉した葉を、はかまにみたてたもの。〈ユリ科〉



ショウジョウバカマ
(点在している)

● トイレ

○ → モデルコース：ゆつくり歩いて約60分

ヨーロッパ原産。高さ10～25センチになる。明治中期に渡来し東京周辺に多くみられたが、ここ数十年で分布を広げている。花をよく見ると、ホトケノザの花とよく似ている。〈シソ科〉



ヒメオドリコソウ

0 100m

常緑低木～小高木。つぼみは前年の7月からできて越冬するが、これほど早くから越冬準備をする花は他にない。有毒植物で葉をかむと苦い。馬が食べると苦しむといい、馬酔木と書く。〈ツツジ科〉



アセビ

アセビ

ヒメオドリコソウ、ホトケノザ

オオイヌフグリ群生

駐車場

森の加チャセター

第二広場

マツ見本林

交歓広場

第一広場

桜山

カエルの卵
△ すべりやすいので足元にご注意ください